

アジア科学技術コミュニティ形成戦略：機動的国際交流事業提案書（基本情報）

1. 提案事業概要

【事業名】	アジア微生物資源の保全と持続可能な利用のためのネットワーク国際会議
(英語名称)	International Meeting for the Network for Conservation and Sustainable Use of Asian Microbial Resources
【提案者氏名、役職、機関・部署名】	鈴木 健一郎、参事官、(独) 製品評価技術基盤機構・バイオテクノロジー本部
【事業形態】*	(1) 国際集会の開催
【実施期間】†	2010年10月13日～ 2010年10月14日 (2日)
【実施場所】†	コクヨホール
【参加国・地域】†	中国、韓国、タイ、インドネシア、マレーシア等 15ヶ国・地域
【事業概要】	<p>【概要】</p> <p>地球規模の気候変動、エネルギー問題を解決するためには、様々な科学技術を国際的に駆使する必要がある。環境問題に微生物の果たす役割は大きい。本提案事業は、特に微生物資源を国際的な連携の基で研究・開発に利用するしくみの構築を最終目標とし、そのための活動を機動的に行うためのアジア国際会議である。主な参加者は、アジア諸国の生物資源センターあるいは生物資源の管理を行う政府機関、大学や研究機関のアジア微生物研究の研究者、科学分野の法律学の研究者である。</p> <p>【機動的国際交流の基本的考え方】</p> <p>2010年、生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)(名古屋)において、遺伝資源の移転に関する利益配分と国際的法規制について議論が予定されている。このような国際動向を踏まえ、本提案事業では、アジア各国の主要な生物資源センター(微生物保存機関)とアジア微生物研究者が参加し、アジア微生物の多様性と潜在的有効性について最新の研究成果を用いて情報交換し、アジア微生物の持続可能な利用のための微生物保全と微生物資源の移転について協議する予定である。人類と地球の未来のために、アジア微生物を用いた科学技術の発展の拠点となるべき生物資源センターの重要性についても話し合い、アジアの生物資源を活用した研究開発のための国際連携のあり方について協議する。</p> <p>すでに2004年、日本が主導的に立ち上げたAsia Consortium for the Conservation and Sustainable Use of Microbial Resources(ACM)では、アジア諸国の微生物資源の保全に関する活動情報の共有化、共通微生物データベースの構築、人材育成の重要性についての議論、アジア諸国の微生物移転モデルについて提案してきた。一方、大学では個別に海外の機関と協定を締結するなど、共同研究体制を模索している。そこで、本ネットワークをさらに発展させるために、日本国内の微生物保存機関が加盟している日本微生物資源学会と連携し、専門分野と参加機関の拡大をはかりたい。さらにアジア諸国のネットワークに加盟していない国に対しても、本国際会議を通じ参加を呼びかけていく。</p>